

平成 26 年度 文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」採択事業
多職種連携医療専門職養成プログラム CoMSEP

平成 29 年度年次報告書

CoMSEP 事務局（筑波大学 医療科学類）

平成 30 年 3 月 31 日

〔目次〕

I. 運営委員会議事録（第1回・第2回）	-----	1
II. 「客観的臨床能力試験」実施報告	-----	7
III. 生体機能診断ワークショップ実施報告	-----	8
IV. 履修証明プログラム報告	-----	11
V. 外部評価委員コメント	-----	15
VI. 総括	-----	16
VII. 発表	-----	17
VIII. 出版	-----	18
IX. 広報活動	-----	18

I. 運営委員会議事録

< 第 1 回議事要旨 >

1. 日時 平成 29 年 4 月 28 日（金） 17:00～
2. 場所 筑波大学医学 4 B 棟（看護・医療科学類棟）104 会議室

【出席者□ 欠席者■】

□二宮治彦（筑波大学）、■川上康教授（筑波大学）、□正田純一教授（筑波大学）、□佐藤斉教授（茨城県立医療大学）、□富田和秀教授（茨城県立医療大学）、□大橋ゆかり教授（茨城県立医療大学）、■石森佳幸准教授（茨城県立医療大学）、□鈴木悦（つくば臨床検査教育・研究センター）、□會田雄一助教（筑波大学）、□関本道治助教（筑波大学）

3. 議題

①平成 28 年度年次報告

HP に公開中の年次報告書は、事前確認のもと委員会が開かれた。

②中間評価後の改善計画書

平成 28 年 12 月に行われた文部科学省による本プログラムの中間評価の結果が「B」であったことが報告された。資料 1 をもとに、具体的な改善計画について二宮教授より説明がなされた。

③平成 29 年度予算

平成 29 年度予算は中間評価の結果を受けて 28 年度の約 3 割減、635 万円の減額になることが資料 2 をもとに述べられた。

④平成 29 年度 事業計画

1) 人事

平成 29 年度 5 月 1 日付で筑波大学の関本助教が RaMSEP（平成 28 年度文科省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」〈放射線災害を含む放射線健康リスクに関する領域〉）の所属となるため、後任を公募していることが述べられた。

2) 学会発表・論文投稿

會田助教が OSLE についてまとめた論文は『臨床検査学教育』に掲載されることが報告された。

学部交流プログラムについては、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士の各専門からみた意義や多職種連携のポイント等を学会発表をしたうえで論文としてまとめ、29年度中に学会誌に投稿することが要請された。掲載が難しい場合は、筑波大学医療科学類のジャーナル(TJMS)に投稿することを要請した。

履修証明プログラムについては、二宮教授が英文で現在執筆中であり、1～2ヶ月中には委員に回覧する意向を示した。

3) OSLE

29年度は9月に実施する予定であるが、會田助教の論文で指摘されたポイントを改善できるよう努力すること、28年度に作成した『OSLEの手引き』の改訂作業が進行中であり、29年度中に最終版(改訂)を出す予定が示された。

4) CoMSEP-CP

予定通り進行中である。e-learningコンテンツは、アイラボの協力を得てビデオ教材を利用したり、年間12コマ行うスクーリングも収録して充実を図ることが述べられた。

5) CoMSEP-CPのBP評価

資料3をもとに、BP評価の内容について説明がなされた。修了生からの応答は少ないが、実施する旨が述べられた。

6) 学部交流ワークショップ

二宮教授より、文部科学省からの助成終了後は継続が困難になることが予想されるため、30年度までにシナリオを充実させることが重要であることが述べられた。

関本助教より、28年度に4つのシナリオを作ったので、29年度でさらに4つのシナリオを作ること、運営についても改善案が示された。また、履修修了生に協力を仰ぎ、臨床現場での多職種連携について講義を依頼する計画を述べた。日程は、平成30年1月16日(火)を筑波大学で行い、1月19日(金)は茨城県立医療大学で行う予定が示された。

佐藤教授より、学部交流WSの茨城県立医療大学での担当が五反田先生から中島修一先生に変更になることが報告された。

7) 合同公開講座

平成 30 年 2 月 18 日（日）に筑波大学において開催されることが述べられた。同じく「課題解決型高度医療人材養成プログラム」を実施している九州大学と筑波大学の放射線グループを招き、プログラムを組む計画が報告された。

8) 外部評価委員会

各委員から本プログラムに高評価を得ていること、文部科学省の助成終了後（平成 31 年度以降）は履修証明プログラムが有料になるため、3 技師会から奨学金が検討されている旨、報告された。

佐藤教授より、文部科学省の助成終了後の具体的な金額について質問があり、二宮教授は、来年の秋、大学本部との交渉次第で決まることを述べた。

9) 広報

例年通りポスターやパンフレットをつくり、広報活動を行う方針が示された。全体の予算は削減されたが、設備備品の購入をなくすことで可能になること、ただし合同公開講座の参加者を増やすためには、ポスターの数を増やすよりも技師会などでの口コミが重要であることが述べられた。

4. その他

・ 29 年度 9 月の 3 日間で行う集中講義「多職種連携医療学概論」は、筑波大学の学士課程として行われるが、茨城県立医療大学の学生も単位互換制度によって聴講できるため、ポスターを作成して受講を呼び掛けること、日程は 9 月 19 日～21 日で調整すること、この講義を録画して e-learning のコンテンツとする計画が示された。

・ 関本助教より、履修 1, 2 期生の有志 6 名と筑波大学の助教 2 名で「CoMSEP ワークショップ」を立ち上げ、職種の垣根を越えた勉強会を目的として活動することが報告された。臨床現場の声を活かして実践的な内容にし、第 1 回勉強会を 29 年 6 月 30 日に行って、年 2～3 回の勉強会を継続し最終的には各職能団体からの後援を目指すこと、修了生以外も対象で、その先輩・後輩も含めて将来の履修生につながることを期待する旨が述べられた。広報手段としては、ポスターを作成して、修了生に各所属病院での掲示を依頼する予定を述べた。

佐藤教授より、県立医療大学側でも勉強会の対応担当者を決める意向が示された。

・ 次回運営委員会は平成 29 年 12 月に開催予定

<第2回議事要旨>

1. 日時 平成 29 年 12 月 15 日（金） 16：00～
2. 場所 筑波大学医学 4 B 棟（看護・医療科学類棟）104 会議室

【出席者□ 欠席者■】

□二宮治彦（筑波大学）、□川上康教授（筑波大学）、□正田純一教授（筑波大学）、□佐藤斉教授（茨城県立医療大学）、□富田和秀教授（茨城県立医療大学）、■大橋ゆかり教授（茨城県立医療大学）、□石森佳幸准教授（茨城県立医療大学）、■鈴木悦（つくば臨床検査教育・研究センター）、□會田雄一助教（筑波大学）、□関本道治助教（筑波大学）

3. 議題

①前回議事要旨確認

資料 1 をもとに、平成 29 年度第 1 回運営委員会の議事要旨が述べられ、修正なく了承された。

②平成 29 年度進捗状況

1) 履修証明プログラム

今年度の履修生 20 名は、全員が順調に履修していることが報告された。

2) 学部交流プログラム

平成 30 年 1 月 16 日と 19 日の 2 日間で、筑波大学と茨城県立医療大学の 3 学科が合同で行うことが関本助教より述べられた。CoMSEP1 期生で現場で活躍している臨床検査技師、理学療法士、放射線技師の各 1 名に多職種連携に関する講演をしていただくこと、昨年度の 4 症例のシナリオに、今年度はさらに 2 症例を追加したことが報告された。

3) 合同公開講座

平成 30 年 2 月 18 日に行われる合同公開講座のプログラムが紹介された。文部科学省による中間評価では、本講座の来場者数が目標値を下回っていることを指摘されたため、今年度はとくに参加者を増やす必要性が述べられた。

4) OSLE

筑波大学で実施している OSLE について、會田雄一助教がまとめた報告が『臨床検査学教育』Vol. 19, No. 2 に掲載されたことが資料とともに紹介された。

5) 学会発表

29年度の学会発表が資料で示され、専門職連携教育に関する論文は會田雄一助教が『臨床検査学教育』に投稿し、30年度に掲載予定であることが報告された。

6) 予算執行状況

平成29年9月5日に筑波大学において文部科学省による実地調査が行われ、備品使用状況や予算執行状況について直接調査がなされたことが報告された。

平成30年度末でプログラムが終了するため、来年度は備品の購入はできず、消耗品のみを10月までに購入することを要請した。来年度の予算額は平成30年2月には決定されることが報告された。

③ 来年度以降の計画・展望

1) 履修証明プログラムカリキュラム

平成30年度の履修生募集に際し、カリキュラムのパンフレットを作成するため、放射線技術科学特論および理学療法学特論の内容を早急に決めることを要請した。パンフレットは、合同公開講座で配布し、広報活動に使用することが述べられた。

2) コンテンツ更新のための計画

平成29年度9月に筑波大学で行った集中講義「多職種連携医療学概論」は、30年度も実施するため、講義内容を決定することが要請された。この講義を録画してe-learningのコンテンツとし、毎年10コマずつ改訂して、4年間で全部の40コマが改訂される計画が再確認された。また、茨城県立医療大学の学生も単位互換制度によって聴講できるため、学生への広報を要請した。

県立医療大学の佐藤教授から、9月の集中講義の時期について、学生の実習時期や休む時期を勘案して見直すことが要請された。

3) 合同公開講座

2019年2月17日（日）に、つくば国際会議場で行うことを予定している。

4. その他

○関本助教より、履修修了1,2期生の有志を中心にした「CoMSEPワークショップ」を6月と11月に行ったことが報告された。1回目（6月）は15人、2回目（11月）は22人が参加し、30年

度も継続予定であることが報告された。

○論文投稿について

二宮教授が履修証明プログラムについて英文で投稿したところ、調査結果を反映させた内容を求められたため、OSLE、ワークショップ、履修証明に関して、倫理委員会に諮ったアンケート調査を実施することを報告した。そのデータに基づいて論文にまとめ、英文で投稿することをメンバー各位に要請した。

○文部科学省からの補助金終了後のプログラムのあり方について

・平成 30 年度で文部科学省の助成期間が終了し、平成 31 年度からは履修証明プログラムが有料になるため、各技師会で履修生に対する奨学金を検討していることが報告された。

・茨城県立医療大学では、学科長の門間教授を中心にして、全学的な議論が必要になることを述べた。

・二宮教授から、合同公開講座は各大学の校舎で実施し、スクーリングのあり方は履修生の募集にあたって検討する必要があること、合同ワークショップは移動手段としてのバス代が必要になるが、シナリオを利用して継続する価値があることを述べた。

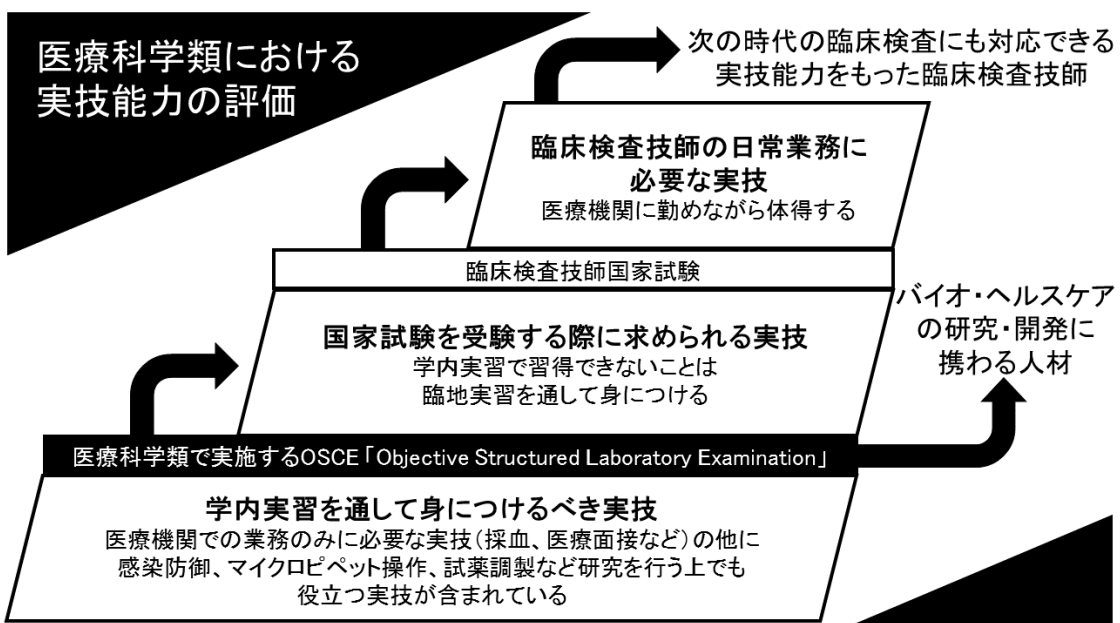
II. 「客観的臨床能力試験」実施報告

茨城県立医療大学と筑波大学では、診療放射線技師、理学療法士、臨床検査技師を目指す学生を対象とした客観的臨床能力試験 (Objective Structured Clinical Examination: OSCE) を実施しましたので、公表いたします。

茨城県立医療大学では現在、全ての学科において OSCE を導入している。放射線技術科学科では 3 年次後期の「診療放射線技術学実習」の前後に、理学療法学科では 4 年次前期の「総合臨床実習」の前後に OSCE を実施している。一方、臨床検査学教育における OSCE はまだ普及しておらず、むしろ他の医療専門職に比べて遅れを取っている状況である。80 以上ある臨床検査技師の教育施設のうち、OSCE を実施している施設は一部に限られ、その内容も充実させる余地があると聞く。筑波大学医療科学類で実施する OSCE は“Clinical”を“Laboratory”にして「Objective Structured Laboratory Examination: OSLE」と称している。OSLE の目的は、「学内実習で学んだ基本的な知識・技能・態度を評価することで、臨地実習や卒業研究への導入を円滑にすること」である。

今年度の OSLE は、医療科学類 3 年生 38 名を対象とし、9 月 28 日に実施した。6 グループに分かれて 4 科目の実技試験、ならびに実技に関連した筆記試験を行った。集合時間は 8 時 30 分、試験開始は 8 時 50 分であった。採血手技の試験では、昨年度の 10 分間から 12 分間に試験時間を変更した。17 時 35 分の試験終了後は自由解散とし、翌日、実技試験の解説を行った。受験者にはその後、個別にフィードバックを行い、12 月からの臨地実習に向けて復習を促した。

OSLE の教育効果を評価するために、臨地実習の前後にアンケート調査を実施した (筑波大学医学医療系医の倫理委員会承認)。結果がまとまり次第、学会等で発表する予定である。



Ⅲ. 生体機能診断ワークショップ実施報告

筑波大学・茨城県立医療大学の学部交流プログラム「生体機能診断ワークショップ」を1月16日に筑波大学で、1月20日に茨城県立医療大学で実施しました。今回で4回目の実施となる生体機能診断ワークショップは、昨年度同様に「将来医療チームの一員として、各々の専門職種としての役割を果たし患者さんの生体機能情報をいかに診断し治療・ケアに反映させるか」という課題について専門領域の異なるメンバー間での討論を行い、各専門職種の理解を深め、チームワークおよび当事者の力を引き出すエンパワメントの意義を理解し、ケアの方針をたてる過程を体験する」ことを目的としました。

今回は、筑波大学医療科学類3年38名、茨城県立医療大学放射線技術科学科3年42名、理学療法学科3年42名の3学科122名が参加しました。今年度の生体機能診断ワークショップのプログラムを表1に示します。昨年度と同様に、「生体機能情報をいかに診断し治療・ケアに反映させるか」を目的に症例を提示し、討論（コアタイム）を中心に行い、3職種の理解を深めるようプログラムとしました。今年度は、「乳がんに関する症例」、「COPDに関する症例」、「脳梗塞に関する症例」の3症例を用いてコアタイムを実施しました。また今年度は、CoMSEP 履修証明プログラムを修了された臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士の受講生を招き、「臨床現場における多職種連携の現状」について講演をして頂きました。

表1 平成29年度生体機能診断ワークショッププログラム

1日目 筑波大学 1/16 (火)		2日目 茨城県立医療大学 1/19 (金)	
9:30 ~ 10:30	オリエンテーション	9:30 ~ 10:30	コアタイム-2 (1時間)
10:40 ~ 12:20	アイスブレイク (30分) グループワーク1 (70分)	10:30 ~ 11:30	グループワーク3 (1時間)
13:20 ~ 14:30	多職種連携に関する講演 (20分/1人) ・山田 泰寿 (MT) 放射線医学総合研究所 ・赤津 敏哉 (RT) 筑波メディカルセンター病院 ・丸山 真範 (PT) 会田記念リハビリテーション病院	12:30 ~ 14:30	まとめのワーク (2時間)
14:30 ~ 15:00	コアタイム 全体説明	14:40 ~ 16:40	発表会 (総括も含む)
15:20 ~ 16:20	コアタイム-1 (1時間)	16:40 ~ 17:00	アンケート
16:30 ~ 17:30	グループワーク2 (1時間)	17:00	解散
17:40 ~ 18:00	2日目の説明		
18:00	解散		



図1 生体機能診断ワークショップの様子.

左写真はオリエンテーション, 右写真は臨床現場における多職種連携に関する講演



図2 コアタイムの様子. 左写真は筑波大学, 右写真は茨城県立医療大学でのコアタイム



図3 生体機能診断ワークショップ2日目. 左写真は発表会, 右写真は症例解説

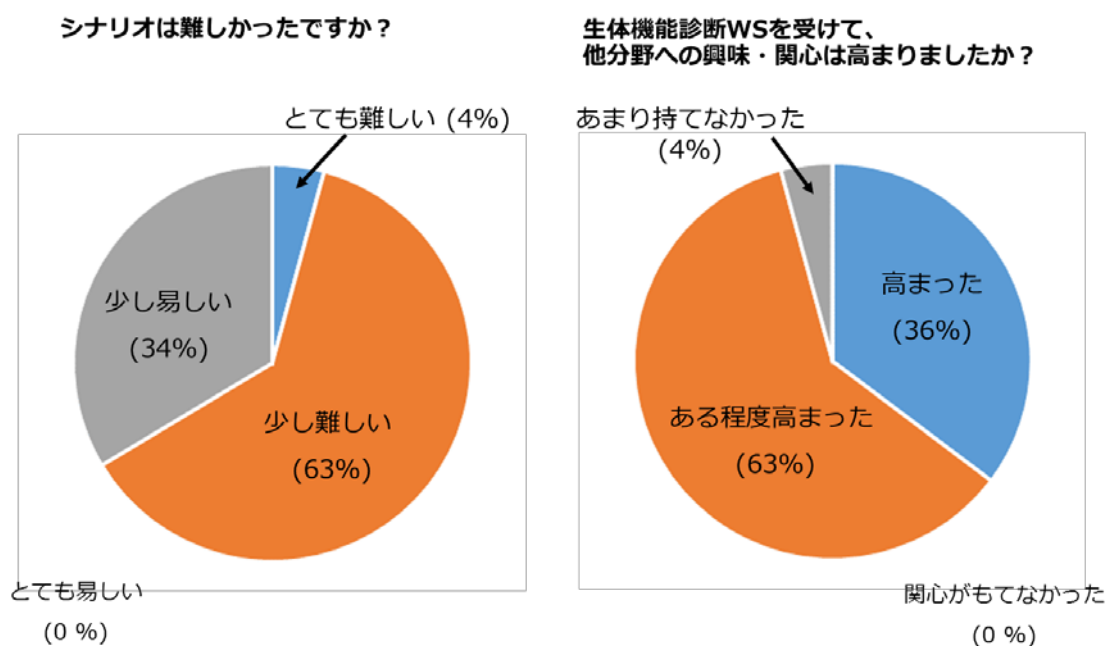


図4 生体機能診断ワークショップ満足度調査の結果

昨年度のシナリオは、学生には難しかったと回答が挙げられたため、今年度は難易度を下げて実施をしました。満足度調査の「シナリオは難しかったか？」との問いに、「少し易しい」との回答が昨年度に比べて多かったです。逆に易しくしたために、「他分野への興味・関心は高まりましたか？」との問いに、「あまり持てなかった」との回答が昨年度より若干増えた結果になりました。シナリオの難易度については、さらに次年度検討をする必要があると考えています。また今年度は、生体機能診断ワークショップが多職種連携教育（Interprofessional Education：IPE）に有効な教育か検証する調査を実施しました。この結果については、改めてご報告致します。この結果も踏まえ、次年度に向けてより良い生体機能診断ワークショップになるように検討していきたいと考えています。

今年度も生体機能診断ワークショップを無事に終了いたしましたこと、関係者の先生方に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

IV. 履修証明プログラム報告

平成 27 年度に履修証明プログラム「多職種連携メディカルスタッフ教育プログラム」を開設し、今年度は第 3 期履修生を受け入れた。本プログラムは e-learning の履修と、集中開講のスクーリング、年度末に行われる合同公開講座からなる。e-learning のコンテンツは 3 ヶ月毎に公開され、臨床検査学 (I・II)、放射線技術科学、理学療法学を体系的にかつ短期間で学び直すことができる。臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士が主な対象であり、出身学校や勤務病院の制限は設けない。筑波大学の特別の配慮により、昨年度までに続き今年度も授業料を全額免除とした。

今年度の履修生は臨床検査技師 10 名、診療放射線技師 6 名、理学療法士 4 名であった。勤務病院は茨城県 18 名、東京都 1 名、北海道 1 名であった。

昨年度までの課題として、e-learning コンテンツの継続的な更新が挙げられていた。本年度より筑波大学で集中講義「多職種連携医療学概論」を開設し、平成 29 年 9 月 19 日から 21 日までの 3 日間、1 単位×10 コマの集中講義を行った。筑波大学の学生だけでなく、茨城県立医療大学の学生も、単位互換制度を利用して聴講することが出来るようにした。講義を筑波大学医療科学類の自動収録システムで録画し、e-learning のコンテンツとして編集した。これにより、計 40 コマある e-learning のうち、4 分の 1 が更新されることになり、4 年間で全てのコンテンツが新しいものに置き換わる予定である。また、本プログラムの履修生が勤務先で多職種連携を実践するきっかけにつながったについて検証することも課題となっていた。この点については、平成 30 年 2 月 18 日に開催された筑波大学・茨城県立医療大学合同公開講座において、第 1 期履修生から修了後の活動について報告があった。平成 29 年 6 月 30 日と 11 月 17 日に、修了生を中心として「CoMSEP ワークショップ」が開催された。3 職種から 1 名ずつが講師を担当し、各職種のテーマに沿った講習や実技演習を実施したと報告された。

医療専門職は医療機関に就職した後、学会や職能団体に入会して卒後教育の機会を得ている。また医療機関では、部署ごとにあるいは施設として定期的に研修会が開催されている。こうした卒後教育を通して「専門性」の向上と「多職種連携」への理解を推し進めることによって高度医療人材を養成することが可能になる。医療専門職にとって、スキルアップは働きがいやモチベーションの向上に不可欠である。CoMSEP の履修証明プログラムは大学がもつ教育資源を活用し、臨床検査学、放射線技術科学、理学療法学を広く学び直す機会を提供する。こうしたコンテンツを履修することによって、他の医療専門職への理解が深まり、互いに補完し合う土壌を医療機関に築いて主体的に多職種連携を実践していく医療専門職の育成を目指している。

履修証明プログラムを含む CoMSEP の外部評価は、公益社団法人茨城県臨床検査技師会、公益社団法人茨城県診療放射線技師会、そして公益社団法人茨城県理学療法士会の代表者に依頼している。年度末に開催される公開講座や外部評価委員会は 3 団体の代表者が顔を合わせる機会になっていることも特筆すべき点である。「専門性」の向上のために活動する

職能団体が「多職種連携」への理解も推し進める新たな枠組みを形成したことになる。本学では、履修証明プログラムの開設を通して蓄積されるノウハウを他の大学と共有することによって、大学が核となるブラッシュアップされた履修証明プログラムが全国に普及することを目指す。

大学がもつ教育資源

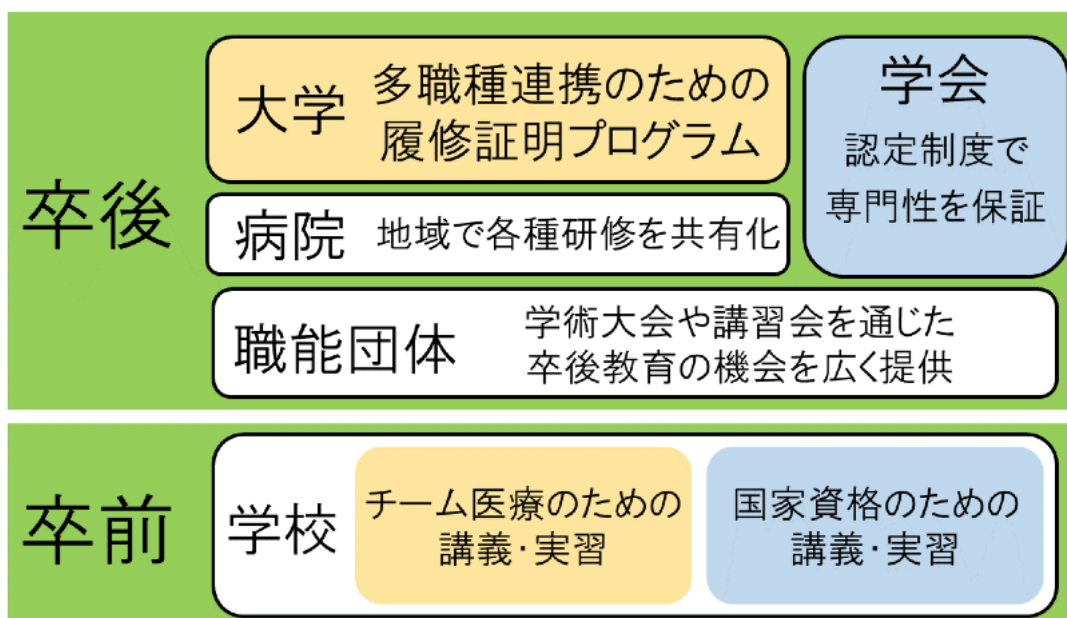
【ハード】 e-learningに必要な 学習管理システム



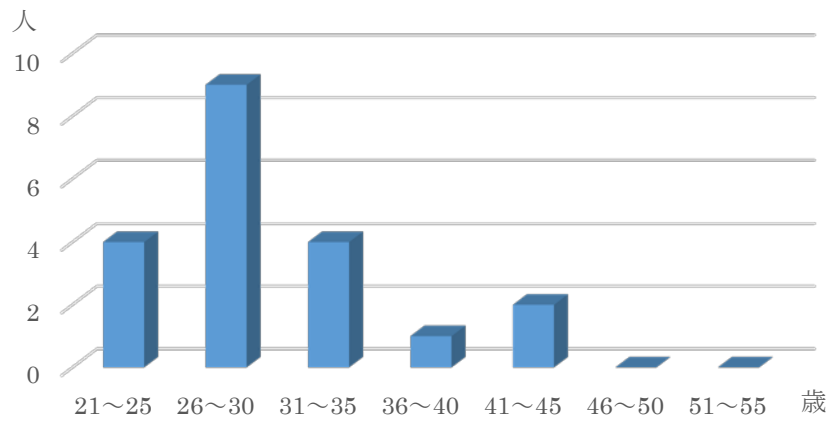
【ソフト】 医学医療を専門とする 大学教員による授業



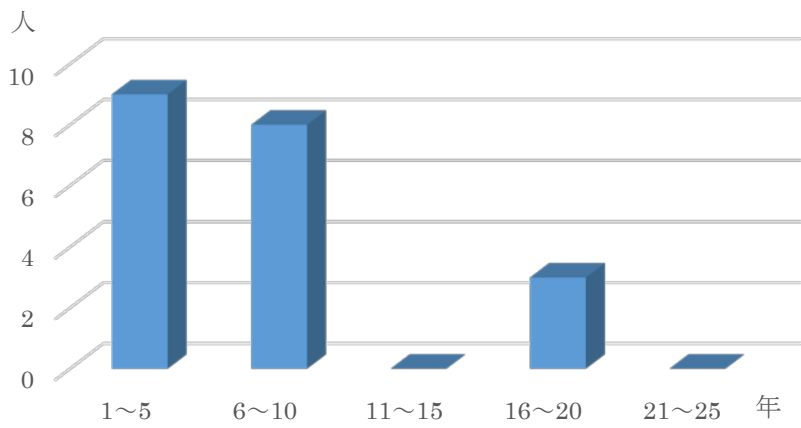
医療専門職の卒前・卒後教育における履修証明プログラムの位置づけ

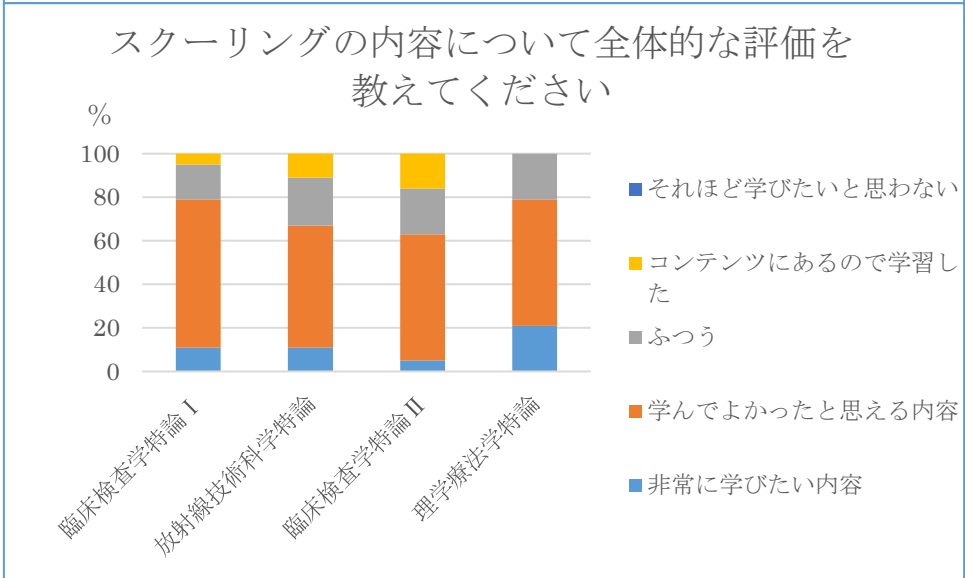
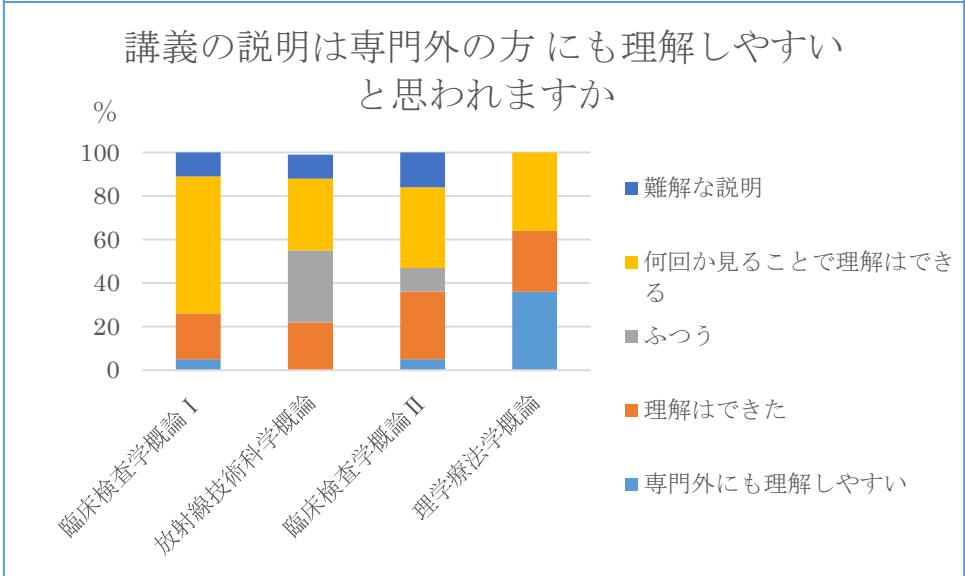
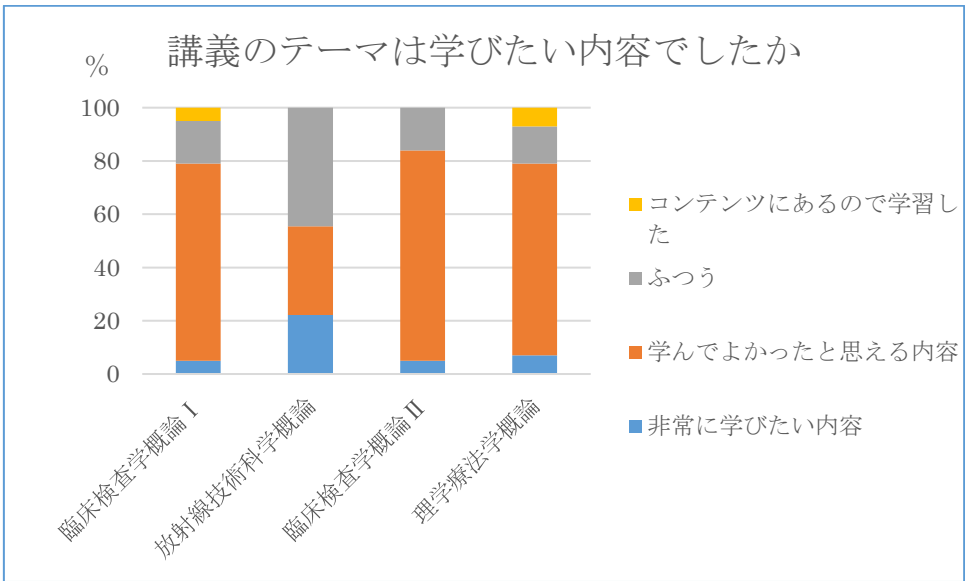


第3期履修生の年齢



第3期履修生の経験年数





V. 外部評価委員コメント

平成 29 年度「多職種連携メディカルスタッフ教育プログラム」外部評価

外部評価委員代表者氏名（門馬敏郎）

e-learning のコンテンツは毎年更新改定され、専門外の対象者を意識した内容になっており、継続的な見直しと改善を行っています。また、臨床検査技師を目指す学生を対象とした OSLE 手引きの改定もさらに充実し、卒後の臨床検査技師からみても大変参考になる手引きとなっております。

CoMSEP Workshop の開催においては、修了生以外も対象とし、臨床現場の声を活かした実践的な内容にするなど、参加者が徐々に増え、職種の垣根を越えた勉強会をされており、高く評価します。

合同公開講座では多職種（3 職種）連携医療の意義の啓発が浸透していない中の開催とあって、来場者数が目標値を下回っており、講座企画内容の検討や多職種（3 職種）職能団体の多職種連携医療について、協議が必要であると考えます。

以上

VI. 総括（文責：プログラム・リーダー 二宮治彦）

プログラム4年目の平成29年度は、履修証明プログラムのコンテンツの更新メカニズムの計画にのっとり、医療科学類の学士課程の講義科目「多職種連携医療学概論（1単位）」を計画通り、開始されました。夏季休業の最終週を日程とすることで、今後も筑波大学および茨城県立医療大学の学部課程の学生がともに学ぶ場所と機会を提供していきたいと考えています。履修証明書を多くの履修生には1年間の履修期間で授与することができました。

学部交流プログラムである「生体機能診断ワークショップ」に活用するデジタル教材の充実に努めた結果、多職種の専門職を目指す学部学生が症例（患者）を中心にアプローチすることの意義を学ぶ機会として発展させるための基盤ができたと思います。

筑波大学医療科学類におけるOSCE導入と実践は『OSCEの手引き（改訂）』の発行（全国に関連教育施設も配布）により学生の意識・動機付けはできました。今後は事前準備、評価基準の標準化を目指していく予定です。

年度末に実施した外部評価委員会の評価ではおおむね高評価を得ておりますが、平成30年度に向けて、改善点も指摘されており、量的・質的にもさらなる向上を来年度目指して、終了後、事業が順調に自走できるようにしたいと思います。

VII. 発表

- ・第12回日本臨床検査学教育学会学術大会（埼玉）

「症例検討会をモデルにした専門職連携教育に用いるデジタル教材の開発」

會田 雄一; 関本 道治; 奥野 裕佳子; 富田 和秀; 五反田 留見; 佐藤 斉; 大橋 ゆかり; 磯辺 智範; 小池 朗; 二宮 治彦

- ・第12回日本臨床検査学教育学会学術大会（埼玉）

「筑波大学における臨地実習前 OSCE のブラッシュアップに向けた取組」

會田 雄一; 山内 一由; 森川 一也; 上妻 行則; 上杉 憲子; 中川 嘉; 吉田 文代; 小池 朗; 二宮 治彦

- ・第66回日本医学検査学会（浜松）

「医療専門職として働く社会人を対象とした多職種連携のための履修証明プログラムの開発」

會田 雄一; 山内 一由; 関本 道治; 二宮 治彦

- ・第11回日本診療放射線学教育学会総（秋葉原）

「メディカルスタッフ卒前教育における多職種連携型教育の試み」

関本 道治; 磯辺 智範; 會田 雄一; 中島 修一; 奥野 裕佳子; 石森 佳幸; 對間 博之; 富田 和秀; 大橋 ゆかり; 佐藤 斉; 二宮 治彦

- ・第52回日本理学療法学術大会（幕張）

「多職種連携医療専門職養成プログラムを通じた理学療法士の育成について」

奥野 裕佳子; 関本 道治; 青山 敏之; 滝澤 恵美; 橘 香織; 大橋 ゆかり; 佐藤 斉; 二宮 治彦; 富田 和秀

- ・第35回茨城県診療放射線技師会学術大会（香川）

「多職種連携アンケート調査から見た診療放射線技師の現状と今後の課題」

赤津 敏哉; 丸山 真範; 丸山 智子; 新井 良輔; 関本 道治; 宮本 勝美

- ・29回回復期リハビリテーション病棟協会大会（広島）

「アンケート調査から見た多職種連携の現状と今後の課題」

丸山真範; 赤津 敏哉; 新井 良輔; 丸山 智子; 関本 道治

VIII. 出版

・『臨床検査学教育』Vol. 9, No. 2, pp. 188-193, 2017.

「臨床検査学教育に客観的臨床能力試験を導入するための筑波大学における取組み」

會田 雄一；山内 一由；上妻 行則；二宮 治彦

・『臨床検査学教育』Vol. 10, No. 1, pp. 9-13, 2018

「臨床検査技師を目指す学生が参加する症例検討会をモデルにした専門職連携教育」

會田 雄一；関本 道治；磯辺 智範；二宮 治彦

・TJMS 14(1)：24-25, 2018

「第4回筑波大学・茨城県立医療大学合同公開講座」開催

真家 紘一郎；會田 雄一；関本 道治

<http://www.md.tsukuba.ac.jp/cnmt/Medtec/3%2020180330%205%20TJMS.pdf>

・TJMS 14(1)：26-28, 2018

「平成 29 年度生体機能診断ワークショップ報告」

関本 道治；會田 雄一；真家 紘一郎

IX. 広報活動

CoMSEP ホームページ

<http://www.md.tsukuba.ac.jp/comsep/>

ホームページからリンクした YouTube 動画

多職種連携医療専門職養成プログラム (CoMSEP) 1

<https://www.youtube.com/watch?v=2obYk60dulM>

多職種連携医療専門職養成プログラム (CoMSEP) 2

https://www.youtube.com/watch?v=Hm20shhYr_8

多職種連携メディカルスタッフ教育プログラム

<https://www.youtube.com/watch?v=jlFRJt7tuT8>

多職種連携メディカルスタッフ教育プログラム 2017. 6

<https://www.youtube.com/watch?v=UCTV3p1NpRo>

多職種連携メディカルスタッフ教育プログラム 2017. 9

https://www.youtube.com/watch?v=IFkq-hV0G_o

多職種連携メディカルスタッフ教育プログラム 2017. 12

<https://www.youtube.com/watch?v=UMN3PRu3dRQ>

合同公開講座 2017

<https://www.youtube.com/watch?v=SU4uF2tOW5g>

合同公開講座 2016

<https://www.youtube.com/watch?v=bmDE1wBVIRE>

合同公開講座 2015

<https://www.youtube.com/watch?v=cOsYA0SHidE>

合同公開講座 2014

<https://www.youtube.com/watch?v=THRBvCObswo>

生体機能診断ワークショップ 2016

https://www.youtube.com/watch?v=7Xl_dX8zJao

臨地実習前 OSCE (試行 4 年目・2017)

<https://www.youtube.com/watch?v=H27vKSh7cug>

臨地実習前 OSCE (試行 3 年目・2016)

<https://www.youtube.com/watch?v=hCytJENPkVY>

臨地実習前 OSCE (試行 2 年目・2015)

https://www.youtube.com/watch?v=o_gl3QytToo

臨地実習前 OSCE (試行 1 年目・2014)

https://www.youtube.com/watch?v=k5_pm8hIVBo

発作性夜間ヘモグロビン尿症の検査

<https://www.youtube.com/watch?v=xWmsfZIHroA>